

埼玉支部報 第15号

目 次

支部長就任にあたって	1	若御子山と大反山	8
平成 27 年度支部委員紹介	2	日向沢の峰~長尾丸山~棒の嶺	10
全国支部懇談会に参加して	2	今年も楽しいふれあい登山	11
総会記念山行・志賀坂諏訪山	4	岩登り講習会	13
3 支部会員が雲取山荘に集合	5	心肺蘇生法と AED 講習	13
YOUTH CLUB 雪崩講習会に参加して	6	玉原自然観察会報告	14
塚山-ロマンと不思議の山-	7	四季の山(夏)案内・会員異動・今後の予定	15

支部長就任にあたって

埼玉支部会員及び支部会友の皆様、日頃は支部活動や支部運営にご支援・ご協力頂き有難うございます。平成27年4月18日(土)に開催されました日本山岳会埼玉支部通常総会において、大久保春美氏の後を引き継ぎ支部長に選出され、本部理事会の承認を得て、森武昭日本山岳会会長より埼玉支部長に任命(5月13日)されました。

埼玉支部は平成22年4月に発足し、今年4月 で創設6年を迎えました。平成27年度年間計画 に掲げられた活動を会員・会友の皆様のご協力を 得て進めるとともに、将来の展望を考慮した支部 活動が重要であると考えられます。会員相互の連 携や親睦を更に活性化するため、各種委員会活動 への積極的な参画や支部事業への参加率を高め る活動を展開するとともに、より一層安全登山の 啓発と実践に努力したいと考えております。最近、 秩父や奥武蔵の山々を歩いていても、若い登山者 を数多く見かけます。支部活動の継続的発展や会 員の高齢化を抑制するためにも、次世代を担うリ ーダーの育成体制の整備及び若手会員増加に繋 がる取り組みの強化が必要とされます。公益事業 としては、独埼玉県障害者スポーツ協会と共催す る「ふれあい登山」や本部が企画しております「親 子で楽しむ山登り」への情報提供、埼玉県教育委 員会・越生町教育委員会・埼玉県山岳連盟・埼玉

支部長 松本敏夫

県勤労者山岳連盟・ 埼玉新聞社などの後 援を得て、自然観察 会や安全登山講演会 などを開催し、森 で り及び自然保護山 動並びに一般登山 愛好家などとの連携 により、公益事業活 動を広げることが可



能と考えられます。一方、対外的な活動を強化するためにも事務局機能及び広報機能の強化が重要と考えられますので、会員の皆様の積極的な参加を期待致します。

昨年は支部創設 5 周年で、ネパール・ヒマラヤにおける登山やトレッキング及び第 30 回全国支部懇談会の開催等を実施しました。今後は、多くの会員や会友が参画できる支部創設 10 周年記念事業に向けた短期・長期の取り組みを提案して行きたいと考えております。

最後になりますが、前任者の業績を汚さないように、また微力ながらも皆様のご期待に添うように支部運営に注力して行く所存です。前任者と同様のご指導・ご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

ホームページ担当

平成 27 年度支部委員紹介

 松本 敏夫
 支部長(新任)
 冨樫 信樹
 総務委員長

 野村 孝義
 副支部長
 山崎 保夫
 山行副委員長

高橋 努 副支部長(新任)兼山行委員長 惠 秀彦

古川 史典 事務局長(新任) 龍 久仁人

石塚 昌孝 会計 稲越 洋一

正田 範満 安全登山委員長(新任) 多田 稔 (新任)

大久保春美 社会貢献委員長 中村 直樹 監事(新任) 高嶋 徳紘 自然保護委員長 朝日 守 監事(新任)

堀川 清 広報委員長



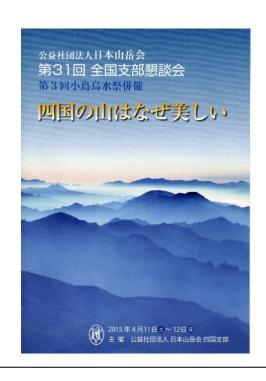
平成 27 年度支部総会 記念写真

全国支部懇談会に参加して

多田 稔

4月11日~12日、四国支部主催による「第31回全国支部懇談会」が香川県高松市で開催されました。埼玉支部からは大久保支部長と宮川さん、小島さんと私の4名が参加しました。

11 日午前中は高松市郊外の高台にある峰山公園で「第3回小島鳥水祭」に出席しました。高松市は日本山岳会初代会長の小島鳥水さんの生誕の地だそうです。「小島鳥水レリーフ」の前で盛大に行われ、森会長による主催者挨拶、来賓挨拶、小島さんのお孫さんの詩吟や全員で「雪山讚歌」、「富士の歌」を合唱して式は終わりました。



このあと、地元高松山行会の皆さんに「讃岐う どん」でお接待をしていただきました。

参加者はおいしいので何杯も御代わりしていました。 地元の皆さん、ありがとうございました。





11 日午後 1 時 30 分に始まった「全国支部懇談会」は、瀬戸内や屋島を見渡せる山の中腹にある喜代美山荘「花樹海」を会場に、全国から約 160 名の参加がありました。四国支部の尾野益大支部長の主催者挨拶ののち、講演会が開催され「小島烏水と江戸・常泉院」と題して小島家菩提寺である常泉院住職(東京)の平井宥慶氏の講演がありました。小島烏水は明治 6 年に高松で誕生し、2歳のころに上京しているが、小島家は代々「常泉院」の檀家になっていたようです。常泉院は文京区後楽園の近くにある真言宗のお寺ですが、香川県は真言宗が多いのでその縁で常泉院を選んだようです。平井住職は小島烏水とは直接会ったことはないそうですが、息子さんの思い出などを交えて小島家を振り返っていただきました。

講演会に続き「四国の山はなぜ美しい」をテーマに、スライド鑑賞とシンポジウムが行われました。四国各地の山々や動植物を写真により詳しく解説をしていただきました。撮影は写真家の石川

道夫氏、解説は登山ガイドの清家一明氏。石鎚山系、赤石山系、剣山山系、祖谷山系と深い山々が連なっており、四国のイメージを変えるスライドとお話でした。

後半のシンポジウムのパネリストは、動植物に 詳しい高知大学教授の石川慎吾氏、クライマーの 前田成範氏、登山家の今井順一氏、宮崎良平氏で、 四国の山の魅力を熱く語ってくれました。全国から出席の皆さんも是非登りたいと思ったのでは ないでしょうか。しかし、パネリストの皆さんは 四国にとどまらず、全国の山や海外にも活動の場 を広げています。司会の尾野さんが「四国の山は なぜ美しい」、「四国の山も美しい」と言っていま したが、この山の美しさを日本山岳会だけではな く、皆に伝えたいと思いました。

この後の交流会とアトラクションでは山の歌 と阿波踊りが披露されました。徳島県からやって きた「水玉連」の皆さんと一緒になって踊りの輪 が広がりました。この時、大久保支部長の踊りが お上手だという事で表彰されました。埼玉支部や ったり!

会場ではおいしい料理と素晴らしい夜景、各テーブルには約7名が同席し、それぞれに四国支部の会員がお世話してくださいました。

四国支部は会員が四国 4 県にまたがり、人数も 少ないのに準備から大変だったろうと思います。 本当に感謝します。ありがとうございました。

部屋に戻って同室の方との歓談と楽しい一日 が終わりました。

なお次回開催は越後支部主催で同時期(4月) に行われる予定です。



12日 飯野山登山と観光

Aコースは香川県の「飯野山」、Bコースは徳島県と高知県にまたがる「三嶺」ですが、私はAコースに参加しました。

香川県の平野部には「おむすび」のような山容の山が七つあり、その中で最も高く目立つ飯野山が讃岐富士と呼ばれています。標高 422m なので簡単に登れます。桜やつつじも咲いていました。地元のハイカーもたくさん登っています。

目の前には「金毘羅さん」のある象頭山が大きく 見えます。



高松駅で解散。本当に四国支部の皆さんに大変 お世話になりました。楽しい二日間でした。改め ましてお礼申し上げます。ありがとうございまし た。(記:多田 稔)

12 日 三嶺登山

埼玉支部からの参加者のうち、宮川美知子さん、小島千代美さん、私(大久保)の3名は、剣山山系第3位の高峰である三嶺(みうね・1893m)登山に参加しました。朝6時に宿舎をバスで出発し、いくつもの峠を越えて標高910mの名頃登山口から4つの班に分かれて登山を開始しました。寝不足なため、歩き始めの急傾斜は少し辛かったですが、リーダーの宮崎さん、サブリーダーの森山さんによる植生や鹿被害などの説明を聞きながら、

ぐんぐんと高度を上げていくと、やがて視界が開けて熊笹の道に出ました。所々が崩れやすい不安定な道を慎重に進み尾根にでると、立派な避難小屋に到着。天候が怪しくなってきたので急いで山頂に向かいました。雲が切れると三つに分かれて長く続く尾根を見渡すことができ、四国の山並みの美しさを堪能しました。

この日は、四国支部が管理している菅生ロッジ に宿泊させていただきました。ロッジの庭には、



キャンプファイアーが用意され、夜遅くまで皆さんとの交流を楽しむことができました。翌 13 日は、バスで高松駅を経由し徳島空港へ送っていただき、充実した3日間を終えました。

昨年 10 月に埼玉支部で全国支部懇談会を開催し、準備や運営の大変さを体験していましたので、四国4県の会員による四国支部がこの事業の準備を進めるのは、さぞかし大変だったと思います。 尾野支部長はじめ四国支部のチーム力に敬意を表するとともに、四国の山に登れたことと他支部会員との交流を深めることができたことに心より感謝しています。(記:大久保春美)

【総会記念山行】

志賀坂諏訪山

児嶋 和夫

平成27年4月5日、雨がそぼ降るなか、雨天決行を恨めしく思いながら、集合場所の東武東上線若葉駅に行きました

バスは8時前に駅前に入ってきて現地集合の宮崎 さんを除き22名全員集合です。関越道、国道299号 で志賀坂トンネルまでバスに揺られうつらうつらして いると、有難いことに雨が止んできました。 途中の秩 父路は満開の桜が迎えてくれ、雨を覚悟だったので みんな笑顔で準備もうきうきです。

標高 780mの志賀坂峠諏訪山登山口を 9:50 に2 班の班に分かれて尾根ルートを行きます。路は広く 歩きやすい登山路です。残念ながら雲のため視界は 殆ど利かないものの贅沢は言えません。

11:30 に標高 1207mの諏訪山頂上に着くと南側まじかに瞬間的な雲の晴れ間に両神山が見えました。



昼食を食べ、記念写真をとり九十ノ滝コースを下ります。途中ヤシオツツジや春の草花が目を楽しませてくれました。砂防ダムの上の立派なつり橋を渡ると小さな駐車場で一休みし、林道を下り間物沢に待つバスに乗りました。お疲れ様でした。

バスは 299 号を北に進み、恐竜の足跡の化石を高嶋会員の説明で見学しました。思ったより大きな岩盤でした。

再びバスに乗り、右側に石灰岩の山のために頂上が削られた叶山を見て、午後の心地よい居眠りの中、462 号を神流川に沿い神流湖に下ります。途中三波石の石屋さんがありました。しばらくすると大きな鳥居をくぐり、金鑚神社に着きました。立派な、いわれのある社でご本尊は裏の御嶽山だそうです。ご本尊の御嶽山に登る途中、鏡岩の説明を聞きました。ぴかぴか光った岩です。御嶽山頂上と、しめ縄の張られた岩のある展望岩に行きました。視界のきく展望ポイントでした。

この後バス代が余りそうなのでお風呂に行くことに なります。風呂でさっぱりし、関越道を経て帰路につ きましたが、雨を覚悟の山行だったので、得した気分 した。 幹事の皆様ありがとうございました。

【第4回3支部懇親山行報告】

3 支部会員が雲取山荘に集合

古川 史典

今回で4回目となる、3支部(東京多摩支部、山梨支部、埼玉支部) 懇親山行を、真夏日の、5月30日(土)・31日(日)2日間奥秩父の雲取山(2017m)で開催しました。

この3支部懇親登山の過去3回は、第1回埼玉 支部主催雲取山(2017m)、第2回東京多摩支部 主催御岳山(929m)、第3回山梨支部主催富士山 麓と開催されてきました。

参加者は、東京多摩支部竹中彰支部長他10名、 山梨支部深沢健三支部長他5名、埼玉支部松本敏 夫支部長他11名計29名の参加者が、第1回同様 埼玉支部会員新井信太郎氏オーナーの雲取山荘 懇親会場を目指し、3支部共鴨沢・七ツ石山・雲 取山頂経由で、15時~16時の間に山荘に到着し ました。

そして、夕食後約2時間半弱参加者全員が車座になり、まず雲取山荘新井氏の長男晃一氏、埼玉支部長の挨拶、東京多摩支部長の乾杯で開始された。各支部の活動報告や、支部のCM、参加者の自己紹介、又この懇親登山で知り合った山仲間同士で、機会を見つけ、1年に1度一緒に登山をしています等の報告があり、和気あいあいの中歓談が進みました。

この歓談をスムーズにするのは、やはりお酒の 力を借りるとなおさら活性化されるようで、各支 部が苦労してボッカした、一升瓶・ビール・山梨 支部は支部特製のワイン、雲取山荘からはビール の差し入れがあり、消灯時間を忘れるほどでした。

今回は特筆すべきことがあり、それは「小笠原諸島西方沖の地震」(M) 8.1 の地震が歓談中にあり、全員「山荘が揺れているな」「地震だな」と、大変貴重な経験もしました。

しかし山のマナーを守るのは当然で消灯の時間前に、埼玉支部石塚経理担当の音頭で「関東の1本締め」で中締めをし、まだまだ懇親を続けたい気持ちを抑え、寝床に付きました。



翌日は、朝食事後山荘前で集合写真を撮り、埼 玉支部長松本より御礼と来年主催支部東京多摩 支部長より挨拶があり、山梨支部と埼玉支部は、 雲取山頂・七ツ石山・鴨沢へ、東京多摩支部は、 ロングコースである雲取山頂より七ツ石山・鷹ノ 巣山・六ツ石山・奥多摩駅まで、各支部単位で下 山をしました。

下山時には、「来年また会いましょう」「元気でいてね」等相互の親睦が最後まで行われ、今回主催した埼玉支部としては、目的である「支部を越えた会員相互の懇親と親睦」が図れ、安堵した所でした。しかし、今回3支部の参加者の皆さんが、積極的自発的な形で一人一人この会を盛り上げてくださったことが、大きな成功であったと、感謝しております。

【山行委員会報告】 日本山岳会 YOUTH CLUB 雪崩講習会に参加して

正田 範満

今回、本部 YOUTH CLUB 主催の冬山・雪崩対策 講習会に参加しました。

1月14日(土曜日)朝早く降雪が続く中、立山 駅直ぐ横の会場となる文科省登山研究所に到着 しました。6時前に到着できたので自室に落ち着 き、受付時間まで少しの間、仮眠を取ることがで きました。 8:40 分から事務局の野沢さん達により受付が開始しました。全国より22名の受講者が参加し、全体を4班に班分けされました。9:00 講義室で古野副会長による開会の挨拶や自己紹介などが有り、机上講習も若干あり、その後装備を付け体育館に集合となりました。ここでは搬送実技の講習で、講師より模範デモの後に、各班に分かれて搬送梱包と搬送の実習を行いました。

その後は屋外に出て、実習地へ移動しながら、途中でビーコンチェックを班毎に実施する。スコップを使いピットを約 1m以上堀出し、積雪の観察や安定度のチェックを行うことです。方法は雪の層の目視、指又はペンでの硬さのチェック、温度(表層と下層で2度以上は危険)チェックを行う。スノーソを使い、氷柱を切り出して、三段階の方法でショックテストを実施しました。

昼食(行動食)後、午後からはいよいよビーコンによる捜索演習が始まった。二体の雪崩埋没者を同時に探す演習で埋没地点を、ビーコンを使って捜索し、プローブで埋没位置を特定したら、スコップで堀出し救出する手順である。これを二回2班毎に交互に行い、評価する方法で行った。特に二回目は各班の役割を決めて、ロールプレーで実施した。リーダーが役割を指示し、退避場所やウォッチ役・県警連絡役等の分担を行いながら演習を遂行した。各回大体 15 分以内であった。最後に各自が埋没体験を行ったが、30 c m も埋まると全く動けない。本当に雪崩による埋没は怖いと理解できた。初日はここまで終了となり、気が付くと 17:00 前でした。

翌日も2.班交互に昨日のビーコン捜索を行い、 錬度を高めた。また、救出後搬出梱包と搬出の訓練まで実施した。特に今回はスコップでの堀出しの効率を良くするために、V字コンベアーメソッド教わり、活用してみた。昨日よりチームワークが上がり役割分担やコミュニケーションも上手く取れる様になり、確実に救出も早く成っていた。最後にビーコンが無い人(ご遺体)の捜索方法としてプローブでの一列応対でのプロービングで の捜索実習を行い、全体の実技が終わりとなりました。研修所へ撤収する前に、更にラッセルを行い高所へのハイクアップを行い下山しました。 到着後、各自部屋に戻り私物をまとめ、部屋を清掃して、講習室に集合となる。最後の反省まとめを行って、閉会式を行った。



ビーコンで検出し堀出し中



一列に並んでプローブで捜索中

今回は雪崩講習であったが、講師からはやはり 雪崩に遭いにくい行動やコースを取ることが重 要であるとの説明があった。天候の悪い場合は極 力行動を止める、斜面により条件が違うので、不 安を感じたらピットを極力こまめ掘る。万が一雪 崩に遭ったら、今回の講習を活かし生還できる救 出が行えることがベストであると思いました。

特に、道具の利用方法には繰り返し反復して使用し、操作を慣れておくことが重要であると思いました。次に、チームワークが重要ですので、皆で訓練して役割分担も重要と思いました。

また、ビーコン、プローブ、スコップは冬山では必要な道具であると思います。更に、登山コースの情報(過去の雪崩事故・直近天気を地元の山小屋・タクシーの運転手・駅員等から仕入れる)を参考にする必要があると教えられました。

研修には全国より集まっていましたが、若手の 人々との意見交換や交流は、埼玉支部にとって今 後の活動や、若手の育成面で刺激となり、参考と なりました。今後も機会が有れば参加して行きた いと思いました。

【埼玉 100 山】 塚山―ロマンと不思議の山

高橋 努

一昨年の忘年山行で御荷鉾山から眼下に塚山を展望した。陸地測量部が何度も歩き回ったという登山道の無いヤブ山、という印象であった。

2月7日(土)、立春を過ぎたというのに朝は都心でも零下という厳寒の中、せいぜい数名と予想していたにもかかわらず 16 名もの参加者があった。埼玉支部員は物好きが多い。高速の渋滞にはまったり、登山口探しに手間取ったりで登り口に車を置いて歩き出したのは、もう12時近かった。飯田副隊長に叱られそうな出発時間である。群馬県側から神流湖を渡り埼玉県側に入り、林道を少し上がった山の中腹に吉田太田部の集落がある。NHKで放映された「ムツばあさん」の暮らした山村である。駐車場所にウロウロする我々に土地の爺様が「邪魔にならなきゃどこにおいてもいいよ」と寛容だ。

最後の人家にご挨拶をして、その脇を抜けて植 林帯を淡々と登る。「塚山古墳群入口」などの道 標もあって明瞭な道が続いている。途中からやや 南に振れたようで古墳群には気づかないまま、道 も不明瞭になったが構わず1時間半ほどで山頂に 達した。冬なので葉の無い樹間から御荷鉾山、両 神山、遠くには白く八ヶ岳と展望がある。今日は やや寒さが緩んだようでのんびりと遅めのラン チを楽しむ。

本日のコースリーダーは唯一の登頂経験者で ある堀川さんである。登山口探しでは記憶の曖昧 さを披露したが、この辺で記憶がよみがえったよ うだ。「祠を見たいですか」との誘いがあり、や や北側に下山路を取ると緩やかに広がった場所 に出た。一対の石灯籠が登場したと思ったらその 奥に妙な石積みがある。針葉樹林の中にそこだけ 開けて、高さ数メートルの石積みがあり、上に小 さな祠が祭ってある。これは自然のままなのか、 人工的なものなのか、意見が飛び交う。実に不思 議な雰囲気だ。石の陰から狐か狸でも出そうだ。 そこから堀川さんのガイドでトラバース気味に 少し行くと「塚山古墳群」の標柱がある。周辺に 古墳らしきこんもりした膨らみがいくつもある。 これは本当に古墳なのか、古墳だとしたら何故こ んな場所に? 疑問は尽きない。いや、これは絶 対に古墳だ。何か意味があるはずだ、と信じるこ とにした。



目的の場所を全て目にすることができ参加者 一同、大いに満足した様子で足取り軽く駐車場所 に戻った。農家の庭先にはフクジュソウが咲き誇 っていた。

山中では誰にも会わなかったが、ずっと神の気配を感じていた。多分、塚山は神様の住まいなのだろう。参加者からもこんな場所にはとても一人では来られなかった。登って良かった、との感想が聞かれた。帰路、こだまの湯につかりながら、見事にガイドしていただいた堀川さんに感謝しながら豊かな気持ちを堪能した。

【埼玉 100 山】

若御子山・大反山

松本 敏夫

日 時 : 平成27年3月7日(土曜日)、

天候:小雨・小雪

参加者 : 古川史典、冨樫信樹、今山 健、柴田

研二、梶野、登、田中摩利子、青木、正、

森田つとむ、山崎保夫、松本敏夫

(10名)

コース : 秩父鉄道・武州中川駅 (9:00) - 若御子神社駐車場 (9:10) ~ 若御子神社 (9:16) ~ 若御子峠 (10:22) ~ 三基の祠 (10:30) ~ 若御子山山頂 (10:58) ~ 大反山山頂 (11:30) ~ クタシノクビレ (12:00) ~ 馬頭尊 (12:49) ~ 若御子神社 (13:10) ~ 武州中川駅

国土地理院の二万五千分の一地形図「秩父」に は若御子山や大反山の記載はなく、三角点の記号 と 853.7m の標高が記されている。山と高原地図 「奥武蔵・秩父」(昭文社)には大反山(853.7m) に三角点の記号があり、登山道は点線の記載で、 若御子山は大反山と若御子峠の中間にあり、登山 道や標高の記載は無い。分県登山ガイド「埼玉県 の山」(山と渓谷社)では若御子山は標高 853.7m (三等三角点) と記され、大反山の山名は無い。 また、日本山名辞典(三省堂)で若御子山(標高 730m) は武州中川駅の南 2km、大反山 (標高 854 m) は武州中川駅の南南東 2km と記載されてい る。新日本山岳誌(日本山岳会編 ナカニシ出版) には若御子山の記載は無い。新編武蔵風土記稿の 秩父郡上田野村に「若御子山、村の南にあり、登 り十八町許、雑木多く山上には杉檜など茂れり、 頂きに四十坪許の平地ありて社を立り」と記され、 大反山は触れられてない。奥武蔵研究会の会報 「奥武蔵 295 号」に藤本一美氏は「大反山と若御 子山の山名混乱」と題し、「大反山は標高 853.7 mの三等三角点峰である。点名は『大反』という 寂峰、若御子神社宮司だった笠原政右衛門さんに、 武州中川の里から指差して説明して戴いたのだ

が、里から遠望したとき一番大きく見える飯盛形 の山が若御子山だとのことだった。」と明確に指 摘している。江戸時代から信仰の山としてよく知 られた若御子山も時代の流れで山名に混乱があ るようだ。

秩父鉄道・武州中川駅の駅舎を出ると左に案内 板と公衆トイレがある。二台の車に分乗して若御 子神社に向かう。村社若御子神社の石鳥居には二 基 (阿吽) のオオカミ像の狛犬が参道入口に向か って並んでいる。清雲寺との間にある駐車場で、 他の参加者と合流した。神社入口には「県指定天 然記念物 若御子断層洞及び断層群」説明板や三 基の石碑(庚申塔、大弁財天、勢至大菩薩)があ る。若御子神社参道の石段を登ると二本目の石の 鳥居につく。若御子神社の扁額が架かり、手前に はオオカミの狛犬像が向かい合って設置されて いる。更に石段を登ると左手に本殿がある。若御 子神社の由来によると、「明治二年若御子十二社 権現宮を改め、これより若御子神社と称する。大 正四年神社の移転が許可され、大正五年若御子山 より現在地に遷座される。」とされている。新編 武蔵風土記稿には十二所権現社の項があり「若御 子山にあり、本社二間に九尺、三社合殿」と記載 があり、若御子山には本来、熊野権現(十二所権 現)が祀られていたものと考えられる。

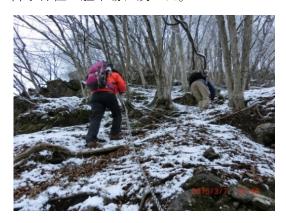
若御子神社から奥社参道入口の石標に従い階段状の歩道をジグザグに登ると若御子断層洞につく。うっすらと積雪が残る寒さの中、額から汗を吹き出させながら急坂を登ると浦山ダムへの分岐で、右折すると展望台がある国見の広場についた。時々雪が舞う天候では展望台からの景色(両神山、二子山、城峯山などが眺められるはずであるが)は全く望めない。杉林の中の歩道を南に進むと若御子峠で、標識は無いが尾根を東西に横切る若御子山遊歩道が確認できる。正面(南)の尾根筋には赤テープが巻き付けられ、立木に「若みこ山」の白いプレートが打ち付けられていた。尾根の上に壊れた社があり、石碑に先祖代々霊神塔の文字が刻まれ御獄信仰と推測できる。更

に急坂を登ると赤い鳥居と三基の祠がトタン屋 根の下に並び、中央の祠には若御子神社、右の祠 は稲荷が鎮座している。

祠の右側を登ると、踏み跡は急に薄くなり、大きな岩が尾根の真ん中に立ちはだかる。右側を巻き、赤テープの目印を確認しながら進む。岩肌がむき出しとなった崖状の尾根に登山道がつけられ、一部はトラロープが吊らさがっていた。ロープや雑木、木の根を掴まなければとても登れそうもない程の足場の悪い急登であり、振り向くと下が見えない。ここを下るのはかなりの勇気が必要で、滑落すると数十メートルは止まりそうもない。赤テープに導かれ、尾根を一旦、右に巻き、左にトラバースすると傾斜が緩やかとなり針葉樹に覆われた若御子山の山頂につく。若御子山と記された白いプレート(730m)が倒れた立木に付けられていて、東側は崖となっている。

尾根筋に付けられた緩斜面の明瞭な登山道を 南に進み、小さなピークの大木の下に十二天の小 祠が置かれていた。右手からの尾根が合流すると 間もなくヒノキの植林に覆われた大反山山頂に ついた。大反山(854m)の標識と保護石に囲ま れた三等三角点が登山道の真ん中に設置されて いる。樹林に覆われた視界が全く利かない山頂は フラットで明確なピークはない。若御子山と大反 山は明らかに異なる山である。山容は大反山が圧 倒的に大きいが、武州中川駅方面から望む山容は 若御子峠の右に三つの山頂が連なる。最も左が若 御子山、右側が大反山で、中央は大反山の肩の部 分で十二天の小祠が置かれた山と思われる。

大反山からクタシノクビレへは約10分である。 峠の標識は設置されてないが、「武州中川駅」の 小さなプレートが立木に括りつけられていた。鞍 部から大反山の西側を巻く道は良く踏まれてい る。大反山の西斜面の一部は広範囲に木が切られ ていて、送電線の鉄塔が霧の奥にぼんやりと霞む。 晴天であれば熊倉山や両神山が望める。木が切ら れた登山道は土が流れ落ち、足場は不安定である。 更に水平に大反山を巻くと、右手に小祠がある大 きな尾根を越す。僅かに雪を被ったザラザラとした急な尾根道をジグザグに一気に下る。沢を渡る手前で馬頭尊(万延二年)を見つけ、古くからの峠道であることを改めて気づかされる。若御子峠への分岐を過ぎ、更に下ると車道で、まもなく若御子神社の駐車場に戻った。



若御子山の崖を登る



若御子山の山頂にて

【埼玉 100 山】

日向沢の峰~長尾丸山~棒の嶺

岸裕子

5月16日(土)埼玉100山に参加した。支部山行にはなかなか参加できていないが、今回は4月の山行に続き、また、皆様とご一緒できるのが嬉しく、とても心待ちにしていた。しかし、気になるのは何と言ってもお天気。朝の天気は予報通りの雨。お昼からは晴れマークとなっていたので、雨が上がるのを期待しながら大宮の集合場所へと向かう。

大宮から出発の一行は 13 人、いつものマイクロバスに乗る。若葉駅、飯能駅で 8 名が合流し、

総勢21名となった。さわらびの湯でトイレ休憩、 有間ダムの湖畔を過ぎ、新緑が萌える山道を辿る と、登山口である有間峠に到着した。

峠はガスっていたが、雨はすでに上がっていた。 準備体操を済ませた後、21名が一列になって歩き 始める。棒の嶺は我が家からも日帰りで行きやす いので、今までに何回も登っているが、今回のルートは初めてだ。有間峠からの逆コース、しかも、 縦走路なので、気持ちもワクワクしてくる。歩き 初めはシロヤシオ、三つ葉つつじ、山つつじなど の花を愛でながらのなだらかな登りである。1時間ほどで日向沢の峰(ウラと読むそうです)に到着。 山頂の看板には飯能市最高峰と記されている。 1356mの山頂からは丹沢や奥多摩の山々を望む ことができた。雲取山はちょうど雲の中に隠れて いて、姿を見ることができない。記念撮影をして、 次の長尾丸山に向かった。

この後、日向沢の峰からの下山道は、しばらくの間、急坂が続いている。雨の後の滑りやすさも手伝って緊張の連続であった。延々と、断続的に急坂が現われ、落石があったり、木の根っこが滑りやすくなっていたり、気を抜くことができない下山が続いたが、1時間半ほどで長尾丸山に到着した。この頃には太陽も時折顔を出し、天候はすっかり回復して、心地よい風が適度な涼しさをも運んでくれる。あまりお天気が良すぎても今の時期はかなりの暑さになるので、今日のお天気は山歩きには最高である。途中、休憩を取りながら槇の尾山~棒の嶺へと歩を進めて行く。棒の嶺到着は、14時40分。予定の時間よりだいぶ遅れているのではないだろうか。

棒の嶺からの下りも、階段状の道が一部荒れていて、良くなかった。木の根に足を引っ掛けないよう、ツルツルの道に足を滑らさないよう、長時間に亘り、気を引き締める下山となった。

緊張を強いられた足に疲労感が出始めた頃、さわらびの湯の広場から、楽器の演奏が聞こえ始めてきた。今日と明日と、2日間、音楽祭が開催されているとのことである。この音楽が演奏されて

いるところまで下れば良いのだと自分に言い聞かせながら、最後の気合を入れ直す。それから、およそ、30分、無事に河又の登山口に帰り着いた。

今回の山行では他のパーティ、登山者とは誰一 人会うことがなかった。本当に珍しいことだと思 う。

下山後は音楽祭の広場に出店中のお店で、早速、 生ビールを仕入れ、一気に、喉を潤しながら、後 続のグループの到着を待つ。

18 時、さわらびの湯を後にして、帰途に就いた。 いつもながらに、和気あいあいの支部山行。参 加者の皆様、ありがとうございました。

余談:この山行ではもう一つみんなで盛り上がったことがあります。

『ピロリ菌』ある人がピロリ菌の除菌の薬を飲み始めたと言います。服薬による体調の副作用のことなど話し始めると、あちこちから私は 10 年前に、私は5年前に、私は?年前よ…。○%まで減らせればいいんだって。でも今なら○%までで良いんだよ。ピロリ菌がいるからって悪いことばかりじゃないんだよと、山中での休憩時間に話が弾み、出発の時間になっても尽きることはありませんでした。



長尾丸山山頂にて

【社会貢献委員会報告】 **今年も楽しい「ふれあい登山」** 大久保春美

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と共同で主催している「ふれあい登山」は今年で5回目になり、4月19日(日)に障がい者43名、付き添い37名、山岳会関係者34名、スポーツ協会1名の総勢115名で、新緑が美しい宝登山に登りました。

秩父線野上駅前 8 時 40 分集合、開始式・準備 運動の後に 11 班に分かれて出発し、長瀞アルプ スを経て宝登山裏参道から山頂、そして表参道を 下り長瀞駅で終了式ののち 15 時に解散となりま した。

地元の人たちにより整備された"長瀞アルプス" という尾根道は、適度な上り下りがありますが、 危険個所はなく歩きやすいコースです。木々の合 間から宝登山が最初に見えたときは遠い道のり に感じますが、意外なほど早く近づいていること が実感できます。このコースの頑張りどころは山 頂に続く200段の階段です。階段が始まる手前の 林道に出たところで1名が足の痛みを訴え、施設 職員が車で下山させることになりましたが、他の 人たちは元気に山頂に到着することができまし た。やはり頑張ったあとの達成感はなんとも言え ないようで、参加者の満足した顔は印象的でした。 山頂に到着した頃には雲行きが怪しくなり、記念 写真の撮影や昼食などで忙しい山頂滞在になり、 景色を楽しむ余裕はなかったかもしれません。宝 登山を下る頃には時折雨が落ちてくるという天 気になり、脳血管障がいの方で編成する1班はロ ープウェイを利用し、他の班は表参道を下りまし た。

初めて参加する人もいれば顔馴染みになった 人もいて、表参道を下る頃にはようやく緊張がな くなってきたようで、会話を楽しみながら最後の 歩きを楽しみました。

山岳会員もすっかり障がい者との登山に慣れてきて、初回の時のような"障がい者とどのよう

に接するの?"などという質問はなく、慣れた様子で参加者の身体状況を把握し、歩くペースや休憩の取り方なども適切に対応できるようになっていました。「ふれあい」という側面からみると、やや忙しい一日となったので、ゆっくり交流する機会は少なかったことが反省点でもあります。

今回のハプニングと言えば、集合時間に到着し ない班がありました。ある障がい者施設の一団で すが、開始式を終了し参加者全員が出発した 10 分後に到着しました。長瀞駅に車を駐車し野上駅 まで歩いて来たとのこと。トイレを済ませいざ出 発と思ったら「弁当や飲み物を買っていない」こ とがわかり、地元の人に9時から開店しているス ーパーマーケットがあることを聞き、必要な買い 物をしたのちに本隊を追いかけるという始末。事 前に送付している「参加者のしおり」には、行動 予定はもちろんのこと、持ち物や服装などを含め 登山に必要な情報はかなり詳しく伝えたつもり でした。施設職員が同行しているのですが、文字 情報の伝わりにくさが露呈したような出来事で した。また、宝登山下山中に小雨になったことで、 参加者が持参した雨具の種類がどのような物で あるかも表面化しました。持ち物を含めた登山の 際の心構えについては、事前に伝える方法をさら に工夫する必要を感じました。

登山終了後のアンケートにおいて、ふれあい登山に参加した感想についての設問では、大変良かった(13)、良かった(4)、ふつう(1)、悪かった(0)という回答があり、その理由として、た

くさんの嬉しい言葉をいただきましたが、紙面の 都合で簡単に紹介します。

< 楽しめた。山岳会の皆さんは親切で安心(多数あり)。頂上に着いた時の達成感は最高。自然の中で気分がよかった。仲間と一緒に登れてよかった。病気になってから初めての登山だったので良かった。最後の階段は大変だったけれど皆の力を借りて登ることができた。山岳会の方が見守ってくれるから。皆さんと交流ができて良かった。子どもが規律あるなかで山登りできた。山桜やたくさんの花を楽しめた。リーダーの方にお話しいただけて良かった。また参加したい。>

このように、良かったという意見が大半でしたが、「前回に比べてペースが遅く、待ち時間が長すぎた。坂道の途中で待機するのは危ないし辛いです」という意見がありました。反省すべき点も多いですが、来年もまた、障がい者もご家族もそして私たち山岳会員にとっても楽しい登山とふ



れあいの場となるように社会貢献委員会でしっかり準備をしたいと思います。



【山行委員会報告】

岩登り講習会

正田 範満

5月23日、東吾野 平戸の岩場にて、岩登り講習会を実施した。参加者は、柴田、梶野、田中、森田、村越、正田(緑)、正田の6名。

講習内容:

- ① ヘルメット、ハーネスの装着のしかたと相互チェック
- ②ロープの結び方(ダブルエイトノット)とハーネスへの結び方
- ③ビレイ(ATC・ATCガイドを使って)のやり 方
- ④最初に中央のクラックの有るルートを使いトップロープをセットし登攀とビレーを行う
- ⑤次に向かって左のルートにもトップロープを セットし登攀とビレーを行う
- ⑥中央のコースを使ってエイト環での懸垂降下 を実施する(各自3回)
- ⑦懸垂降下中のミュールノットでの仮固定(両手

をフリーにする)を実施する ⑧向かって右の岩ルートに もトップトレー を禁とビレー を行う ⑨各自、自由に



所感:初めての

登攀を行う

参加者の為に基本的な事を実施した。特に、ビレーについては慣れるまでに何回もトライしてもらった。ロープを引く時の手作業(手順)やクライミング者へのロープの張り具合、ローワーダウンのスピード等については張り付いて指導を行い、ほぼ満足レベルまで到達した。

懸垂降下はセルフビレーの取方とセットのやり 方を指導したが、事前にローワーダウンの降下を 経験しおり殆ど全員が難なく実施できた。今回は 右の垂直に近いルートのセットも行い、クライミ ングレベルを上げて実施した。

【安全登山委員会報告】

第8回講習会

心肺蘇生及び AED による除細動

松本 敏夫

安全登山委員会主催による第8回講習会「心肺蘇生及びAEDによる除細動」は平成27年2月21日(土)、13;00~16;00、大宮駅東口・仲町川鍋ビル(㈱万代)、8階会議室で開催された。

講習会には埼玉支部会員(6名、但し、講師を含む)が参加した。講師は日本赤十字社救急法指導員・山岳スポーツ指導員(日本体育協会)の渡邉 浩氏(日本山岳会埼玉支部・安全登山委員)である。渡邉氏には4年連続で「心肺蘇生及びAEDによる除細動」に関する講習会の講師を依頼した。

講習は日本赤十字社の「知っていれば安心です 心肺蘇生と AED」の教本に従って実施した。初め に「(救助者は)病気・災害から自分自身を守り、 けが人・急病人(傷病者)を正しく救助し、医師 または救急隊などへ引き継ぐまでの救急手当・応 急手当をいう。」の原則が示された。具体的な心 肺蘇生の手順は、①傷病者が発生した際は、周囲 の状況を良く観察し、二次災害の危険性などに注 意しながら、傷病者の全身状況を観察する。②傷 病者の肩を軽くたたきながら耳元で声をかけ意 識の確認を行う。③協力者を求め、119番通報や AED の手配を依頼する。④傷病者が心停止を起こ しているか、胸部と腹部の動きから呼吸を確認す る。普段通りの呼吸が無い場合は心停止と判断す る。⑤胸骨圧迫について、30回の胸骨圧迫、2回 の気道確保・人工呼吸を繰り返し実施する。

一方、AEDの使い方と注意点では、①協力者を 求めて AED を持ってくるように依頼する。②電源 を入れ(機種により異なる)、音声メッセージに 従う。③電極パッドを胸部(鎖骨の下)と胸部(脇の5~8cm下)に貼り付ける。注意点としては、胸部が水で濡れている場合は乾いた布などで拭き取る、貼付剤が貼られている場合は除去する、などの指摘があった。更に、意識のある傷病者本人が安静にできる最も楽な姿勢(体位)や傷病者の体温の保持と床からの冷えの防止のため、毛布による保温方法などの講習があった。

実際の訓練では、毛布による保温法などは二人一組で実施し、その他は各個人毎に訓練人形及びAEDを使用して繰り返して講習が行われた。今回の講習で実施した心肺蘇生やAEDのような救命法は、応急手当及びハイキングレスキューと共に、登山の際には最低限度の知識や技術が必要と考えられることから、大変有意義で充実した講習であった。今後、多くの会員の方に参加して欲しい講習会である。



講師の渡邉さん

【自然保護委員会報告】

自然観察会

玉原高原ブナ林・湿原・尼ヶ禿山

高嶋 徳紘

玉原湿原を取り巻くブナの森は関東一とも言われております。玉原は、武尊山南西部、標高1200mの溶岩台地上に位置しています。

6月13日(土)、JR 沼田駅よりジャンボタクシーに乗り、午前11:45に自然保護委員会9名は標高1150m 玉原高原・自然環境センターに到着。

気温 20 度。曇り。昼食後 12:30 に森林ルート (ブナ平一周) をスタートし、14:00 標高 1200~ 1250mの玉原湿原に到着➡ワタスゲ・コバイケイ ソウ・ハクサンタイゲキ・ツマトリソウ・ノビネ チドリなど希少・絶滅危惧種を発見・撮影➡15:15 センター着。

この日の宿泊地は、川場村湯原の「源泉・民宿福寿草」で、地酒・サクランボのサービスをいただきました。(錦繍に再アタックチャンスを模索!)

6月14日(日)AM8:30 環境センタ―出発(朝日の森コース) 標高差 256m➡ギンリョウソウ・ミヤマハコベ・ユキザサ・他を観察できました。

尼ヶ禿山山頂(1466m三等三角点)に AM10:45 着。山頂の礫は砂岩(粟沢層?) 柏崎〜銚子線の 影響なのか要研究。南側は崩壊地(伏在断層か?)。 ミヤマナラが山頂部を覆う。山頂まではブナ林、 アスナロ林が点在し、生長しているのが伺える (ブナの実生が驚くほど多い)。

下山路は「玉原越え」を選んだ。車道を下り、途中サワグルミの黄緑色の雄花穂(葉腋)から紅色の雌花の穂が下がっていました(ヤマギリと言って子供の頃の下駄でした)。予定のとおり、正午にセンターに戻ってきました。昼食会は山菜天ぷら・コシアブラ他の特大盛り合わせwith蕎麦・うどんetc。

JR 沼田駅~高崎~大宮 PM5. 30 に到着 (ジパン グ倶楽部往復 2700 円)。晴れ女お二人のおかげで 好天の 2 日間でした。

*** ブナについて ***

ブナは、分類上の位置 被子植物門―双子葉植物網―離弁花(古生花被)植物網―ブナ目―ブナ科―ブナ属。学名: Fagus crenata Blume. (fagus食べられる) (crenata鈍鋸歯のある) (Blume命名者)。形態は、雌雄同株・雌雄異花。5月に開花。性質は、陰樹、落葉広葉樹で世代交代ができ安定した極相林を造る。樹高15~20mに達するのに100年、径1mに300年かかる。

ブナ (ブナ科を含む) の最大の公益性は「保水力」即ち、災害対策並びに水源涵養である。さら

には漁業資源育成に欠かせないのもブナ林の存 在である。

玉原のブナ林は、地理的に太平洋側であるが、 群落組成特徴は日本海側型(ブナ・チシマザサ群 集)で、日本海側型ブナ林が太平洋側型へ向かう 最前線に位置する。

● <u>玉原にはイヌブナ (株立) は生育していない (迦</u> 葉山・川場・三峰山・小持山にはある)

○玉原のブナ林はブナ・チシマザサ群集で、2 亜 群集・4 変群集に区分できる。(ブナは一本立)

組成:標徴種はアカイタヤ・ムラサキヤシオ・コミネカエデ・ハイイヌツゲ・ハイイヌガヤ・エゾユズリハ・ツルシキミ・ヒメモチ(ユキツバキは無い)

○トチノキ亜群集

組成 識別種:トチノキ・オシダ・テツカエデ・ エンレイソウ・ニワトコ・エゾアジサイオクノカ ンスゲ・マルバフユイチゴ・タニギキョウ・サワ ハコベ・オククルマムグラ・キョタキシダ

分布:ブナ平・鹿俣山・尼ヶ禿山の平坦地から緩 斜面にかけて広がっている。この群落が平尾根から緩斜面上部迄発達することが、他の日本海側地 域のブナ林に比べ玉原ブナ林の特異性を示して いる。



参加者募集中! 四季の山・夏山 秋田駒ヶ岳・乳頭山を巡る温泉の山旅 締め切りは7月15日



乳頭山と田代岱 by togashi

四季の山・夏山は2泊3日で東北へ足を延ばします。スケッチの通り、蝶が舞い、花咲き乱れる秋田駒ヶ岳から乳頭山を縦走し、更に秘境山塊の盟主、和賀岳に登ります。東北の山と温泉を楽しみましょう。乗用車分乗です。

- 1. 日程:7月31日(金)~8月2日(日)
- 2. 集合・交通:7月31日(金)7:00 北本駅6:30 若葉駅 乗用車分乗。
- 3. 行程:7月31日(金)東北道・秋田道を経由大曲IC、角館、抱返渓谷、田沢湖など観光、 入浴—休暇村乳頭キャンプ場(テント泊) 8月1日(土)7:00 出発—田沢湖高原温泉 (シャトルバス) - 秋田駒8合目-秋田駒男 女(おなめ)岳—湯森山—乳頭山—16:00
 - 頃乳頭温泉—田沢湖高原温泉(旅館泊) 8月2日(日)6:00 出発(朝食は弁当)
 - 真木渓谷薬師岳登山口-薬師岳-小杉山
 - 一和賀岳-15:00 登山口-21:00 頃埼玉県
- 4. 持参物 通常の夏山登山装備、シュラフ、マット他。キャンプの夕食・朝食は用意しますが、昼食・行動食は自身で調達ください。
- 5. 費用 3万円程度
- 6. 募集人数 12名
- 7. 担当・申込先 高橋 努

携帯電話:090-2906-4356

e-mail: tom-tak@bk9.so-net.ne.jp

※参加者には、詳細をご案内します

埼玉支部の会員異動

平成 27 年 6 月 11 日現在 142 名

入会:鴨志田隼司 (No.15698) 退会:原田 邦彦 (No.14036) 会友: 6月11日現在 14名

入会: 浅見幹雄 (K 0017) 中山茂樹 (K 0018)

月	今後の事業予定	登山担当
	(注) 最終的な日時・場所・内容の変更などはHP、メールをご参照ください	CL
7月	・2日(木)陸地測量部講演会 浦和パルコ10階 午後6:30~	
	「梅本知榮子会員による1970年アンナプルナ日本女子登山隊報告」	
	・5日(日)埼玉100山(宗四郎山・1510m)☆☆(再挑戦) 募集中!	古川
8月	・7月31日 (金) ~8月2日 (日) 2泊3日 募集中!	高橋
	四季の山・夏(秋田駒ヶ岳1637m~乳頭山1478m および和賀岳1440m)☆☆☆	
9月	・5日 (土) 埼玉100山 (不動山549.2m) 帰路・クズの寺参拝 ☆	松本
10月	・4日(日)埼玉100山(天目山・奥多摩より)☆☆	高橋
	・25日(日)安全登山委員会講演会「火山噴火と安全登山対策」	
	・24日(土)~25(日)シカ食害と地滑り調査(不父見山界隈)	
	・25日(日)森づくり・自然観察会(狭山緑の森博物館)	
11月	・10月31日(土)~11月1日(日)四季の山・秋(浅草岳、守門岳、鬼が面岳)☆☆☆	正田
	・21日 (土) 大高取山自然観察会 (事前踏査)	
	・29日(日)大高取山自然観察会(越生町後援、一般参加者募集)	
12月	・12月12日 (土) ~13日 (日) 忘年山行 (秩父周辺ハイキング) ☆ (両神荘宿泊)	古川
平成	・17日(日)新年山行と埼玉100山 (加治丘陵ウオーキング+新年懇親会)☆	宮川・東
28年	・21日(木)埼玉自然保護シンポジウム	
1月	・23日(土)埼玉県警山岳救助隊による安全登山講演会	
	・24日(日)森づくり・自然観察会(狭山緑の博物館)	
2月	・13日(土)~14日(日)四季の山・冬(日光白根山)☆☆☆	高橋
	・20日(土)心肺蘇生及びAED使用法講習会	
3月	・5日 (土) 埼玉100山 スキー・スノーシューハイキング☆☆	正田

登山グレードについて ☆4時間程度、☆☆8時間程度の山行、☆☆☆岩・雪・藪バリエーションを含む

事務局からのお願い

: 住所はもちろんですが、

特にメールアドレスを変更された場合、

事務局へのご連絡をお忘れなく!

事務局長 古川史典 f8008pk@rock.odn.ne.jp 公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 15 号 2015 年(平成 27 年) 6 月 25 日発行 公益社団法人日本山岳会埼玉支部 発行者:松本敏夫

事務局:〒350-0312

比企郡鳩山町鳩ヶ丘1-25-10 古川方

e-mail: f8008pk@rock.odn.ne.jp

HP:

http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html